

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第305回委員会議事録

1. 日 時 平成25年4月12日(金) 9:30~16:30
2. 場 所 東京大学 本郷キャンパス 工学部8号館 51番教室
3. 出席者36名 (順不同・敬称略)

委員長： 寺井隆幸(東大)

主 査： 川口雅之(大阪電通大)、児玉昌也(産総研)

幹 事： 稲垣道夫(北大)、遠藤守信(信州大)、金子邦範(炭素協会)、
京谷隆(東北大)、小林知洋(理研)、豊田昌宏(大分大)、
安田榮一(東工大)、吉田明(都市大)

委 員： 塩山洋(産総研)、羽鳥浩章(産総研)、園部直弘(クレハ・バッテリー・
マテリアルズ・ジャパン/代理：小松真友)、岩下哲雄(産総研)、
柴田大受(原子力機構)、高波浩(タンケンシーラセコウ/代理：木
村直文)、鏑木裕(東京都市大)、藤本宏之(大阪ガス)、川野陽一(新
日鉄住金化学)、中壽賀章(積水化学工業)、飯島孝(新日鉄住金)、
武藤浩行(豊橋技科大)、向井紳(北大)、太田道也(群馬高専)、
阿久沢昇(東京高専)

委 員 外： 菱山幸宥(東京都市大)、清原健司(産総研)、夏目勇(東海カーボン)、
西澤節(神戸製鋼所)、寺西春夫(石川カーボン科学技術振興財団)、

同伴者他： 吉澤徳子(産総研)、曾根田靖(産総研)、小田原玄樹(産総研)、
塩谷正俊(東工大)、山口秋男(炭素協会)

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

第304回議事録(案)を承認した。

4.2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動等

・所属変更

(株)クレハ → (株)クレハ・バッテリー・マテリアルズ・ジャパン (園部委員)

・D分科会主査委嘱

日本工大 上野貴博委員 (D分科会主査代行) にD分科会主査を委嘱

・委員及び幹事職の委嘱

炭素協会 業務部長 山口秋男様 に委員と幹事 (産学連絡担当) を委嘱

東京工業大 大学院理工学研究科 准教授 塩谷正俊様 に委員と幹事 (会場担当) を委嘱

東京工芸大 工学部基礎教育研究センター 准教授 松本里香様 (委員外) に委員を委嘱

・身分変更

東京高専 阿久沢昇委員を委員外登録に変更

・退会

炭素協会 金子邦範幹事

日本大学名誉教授 都竹卓郎様 (委員外)

京都府立大学 細川健次様 (委員外)

(b) 量子ビーム融合化利用研究について

科研費新学術領域研究への応募は採択されず、時限委員会の活動終了。今後の協力量針については豊田幹事と JAEA 石山氏との間で調整。

(c) 次回以降の予定について

第306回 7/5(金) 東京都市大

第307回 9/13(金) 東工大

第 308 回 11/14(木), 15(金) 産総研 (14(木)は東アジアカーボンシンポジウム)

(2) 分科会報告

- (117-305-C-1) マグネシウムをインターカレートした BC₂N 層間化合物の化学結合状態と電気特性
○川口雅之¹, 土岐和也¹, 榎本博行¹, 村松康司² (大阪電通大¹, 兵庫県立大²)
- (117-305-C-2) リチウムをドーピングしたゼオライト鑄型炭素への水素吸着
大嶽文秀, 西原洋知, 京谷隆 (東北大多元研)
- (117-305-A-1) Pyroid®HT の薄板試料と表面劈開小薄片試料の X 線 004 回折
○菱山幸宥¹, 吉田明², 楠木裕²
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大工²)
- (117-305-B-1) BBL ポリマーから調製した網面が水平あるいは垂直配向した炭素薄膜の評価
○小田原玄樹, 曾根田靖, 吉澤徳子, 児玉昌也 (産総研)
- (117-305-B-2) カーボンコーティングに関するレビュー
○稲垣道夫 (北大名誉教授)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査（運営委員長）より以下の報告があった。

(a) 入退会関係

2013 年 1 月 9 日時点の会員数：966 名（正会員；743 名、学生会員；223 名）。

賛助会員 53 社（口数：58 口）

(b) 2012 年度収支

2012 年度収支について確認した。次期繰越金は 8,867,080 円（最終）となった。

2013年度事業には「連載講座」の書籍化、「新カーボン用語辞典（仮称）」の検討などの新規事業を追加する。「新カーボン用語辞典（仮称）」については、Web アンケートを実施したので、その結果を見て運営委員会で検討する。

(c) 第 39 回年会の報告、第 40 回年会の予定

2012 年度第 39 回年会（長野）には 386 名の参加、133 件の口頭発表（招待講演を含む）、65 件のポスター発表があり、盛会となった。

2013 年度第 40 回年会は京都で行う（日時：2013 年 12 月 3 日～5 日、場所：京都教育文化センター）。引き続き「ナノカーボン特別セッション」を通常のセッションと並列するとともに、2013 年度は特別セッションの中に国際セッションを設け、海外（若手）研究者との交流を図る予定。

(d) 1 月セミナー実施報告

1 月 18 日（金）に連合会館にて「新元素戦略および次世代型蓄電デバイスのための炭素材料」を実施し、61 名の参加があった。

(e) 6 月先端講習会準備状況

6 月 28 日（金）に京都教育文化センターにて「リチウムイオン電池用導電助剤とバインダーの最前線」を実施予定。

(f) 国際会議若手研究者支援

国際会議に若手研究者が参加する際に支援しているが、交通費・滞在費に関し他からの補助を受けている場合は申請できないなどの制限があり、申請しにくい面があったので見直した。議論の結果、2013 年度からは参加登録費を 100% 補助することにした（詳細については「炭素」2013 年 4 月号参照）。

炭素誌関係：曾根田氏（編集副委員長）より以下の報告があった。

(g) 257 号は 4 月に発行済み。

(h) 258 号は厚みがあるが、それ以降は投稿数が少なく問題と考えている。

(i) 260 号は「炭素ナノ構造を利用した科学」というテーマで論文募集。11 月発行予定。

(2) Carbon 誌関係

特になし

(3) 国際会議関係

RPGR2013（グラフェン関係）9/9-13 東工大

(以上)